

# 第11分科会

## 研究主題

6年間の系統的な学びを通して、明るく豊かで活力に  
満ちた社会生活を継続する資質や能力を育てる体育学習  
広島県立広島中・高等学校

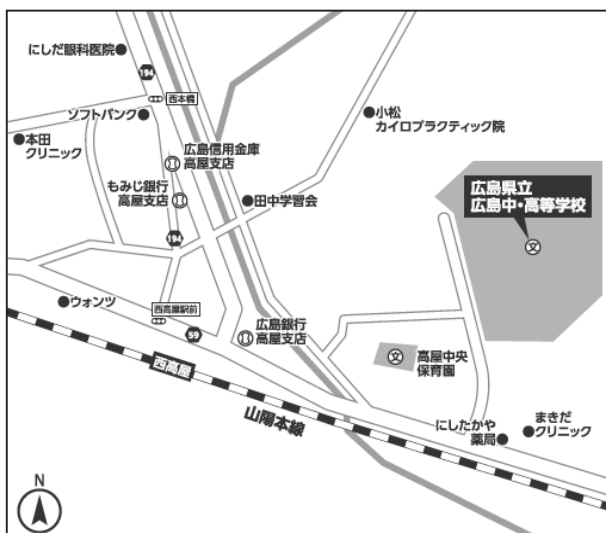
## 日 程

|        |           |        |           |        |        |                      |          |        |       |
|--------|-----------|--------|-----------|--------|--------|----------------------|----------|--------|-------|
| 9:00   | 9:50      | 10:40  | 10:50     | 11:40  | 12:50  | 13:00                | 14:15    | 14:50  | 15:00 |
| 受<br>付 | 公開授業<br>1 | 移<br>動 | 公開授業<br>2 | 昼<br>食 | 開<br>会 | 研究<br>発表<br>研究<br>協議 | 指導<br>助言 | 閉<br>会 |       |

## 公開授業案内

| 区 分    | 授 業                  | 場 所   |
|--------|----------------------|-------|
| 公開授業 1 | 第3学年 体育理論            | 多目的教室 |
| 公開授業 2 | 第1学年 球技（ネット型：バレーボール） | 体育館   |
|        | 第1学年 武道（弓道）          | 武道場   |

## 学校所在地



## 交通機関

### 最寄駅

JR「西高屋」駅下車  
徒歩5分



# 広島県立広島中・高等学校



所在地：〒739-2125 広島県東広島市高屋町中島31-7

連絡先：TEL (082)491-0270 FAX (082)434-7023

E-mail：hcyuko@hiroshima-c.ed.jp

URL：http://www.hcyuko.hiroshima-c.ed.jp/

校長：榊原恒雄

生徒数：中学校（478名）、高等学校（714名）

## ◎教育目標

6年間の計画的・継続的な教育活動により幅広く深い教養と高い知性を培い、グローバル化時代において活躍することのできる人材を育成する。

### ＜校訓＞

- ・高い知性（確かな学力，科学的・論理的な思考力，的確な判断力，豊かな創造力・表現力）
- ・豊かな感性（他人を思いやる心などの豊かな人間力，社会性や規範意識，多文化を理解する態度）
- ・強い意志（困難を乗り越える精神力・体力，高い目的意識，責任ある行動力，自主的に学ぶ姿勢）

## ◎学校紹介

本校は，広島県立としては初めての併設型中高一貫教育校として，平成16年4月に開校し，今年度12年目を迎える県内最大規模の県立学校である。

文部科学省から平成27年度より5年間，SGH（スーパーグローバルハイスクール）の指定を受け，「持続可能な社会の構築に貢献できるグローバル・リーダーの育成」を目指している。

# 広島県立広島中・高等学校

## 1 研究の構想

### (1) 研究の主題

6年間の系統的な学びを通して、明るく豊かで活力に満ちた社会生活を継続する資質や能力を育てる体育学習

### (2) 主題設定の理由

本校は教育方針が実現できるよう、充実したカリキュラムのもと、中・高教員の連携、少人数指導、習熟度別学級編成など、きめ細かい指導を行っている。また、弓道や和楽器の演奏など日本の伝統文化を学ぶ授業、ネイティブ教員による語学指導をはじめ、ハワイ修学旅行、海外語学研修（ホームステイ）など、グローバル化に対応した教育に力を入れており、語学力や問題解決能力等の国際的な素養を身に付けたグローバル・リーダーの育成を目指している。

このような中、本校保健体育科においては、次のア～エの4点から重点課題を設定し、6年間の系統的な取組について研究を進めているところである。

#### ア 学習指導要領から

①運動する子供とそうでない子どもの二極化、②子どもの体力低下傾向、③生涯にわたって運動に親しむ資質や能力が十分に図られていない例も見られる、など課題が挙げられている。（保健体育科学習指導要領解説より）

#### イ 本校教育方針から

本校はグローバル化時代において活躍することのできる人材の育成を教育方針に掲げ、世界的な競争及び共生が進む現代社会でたくましく生き抜く力の育成に向けたプログラムの開発をすすめており、保健体育科としても担う役割は大きい。

グローバル・コア・コンピテンシー（グローバル人材に必要な能力）として、①個性と文化の尊重、②連携とネットワーク、③コミュニケーション能力、④自己理解・自己管理、⑤成果達成志向、をあげることができる。

そのうち保健体育科としては、特に次の点を重点項目として考えている。

- 日本の伝統文化への理解を深めるとともに、異文化に関心を示し理解する。（①個性と文化の尊重）
- 協調性を持ち、知識・情報の共有、協働・協力を行うとともに、建設的な意見交換を行うなどコミュニケーション能力を育成する。（③コミュニケーション能力）
- 主体性、チャレンジ精神及び責任感を持って、PDCAのサイクルを通して成果を意識して取り組む。（⑤成果達成志向）

#### ウ 保健体育科（広島中・高）の教科目標から

「リーダーを育成する授業の創造（中学校）」、「学習指導要領の趣旨を踏まえた活力ある社会生活を実現する体育授業の創造（高等学校）」をそれぞれ教科目標としている。

中学校段階においては、多くの領域の学習を経験するなかで、リーダーを中心としたグループ学習を行い、活動は受動から能動への移行時期となる。

高等学校においては、①身体能力（体力及び運動技能）の向上、②情緒面や知的な発達、③コミュニケーション能力の育成、④筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動（PDCAサイクル）などを通じて論理的思考力を育む、⑤我



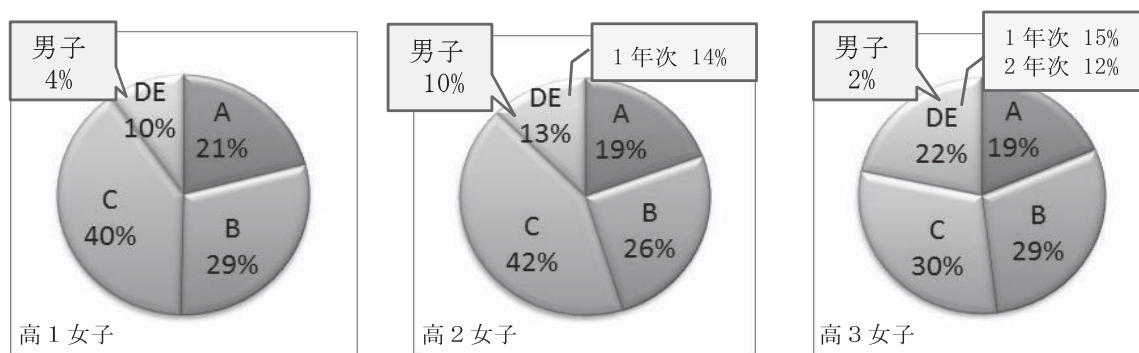
が国固有の伝統と文化に一層触れる指導を行う，⑥体育理論の充実，などがあげられる。

## エ 本校生徒の実態から

### (ア) 新体力テストの結果より

全国比較をみると，ほぼバランスよく平均値前後となっている。

また，男子はそれぞれの項目について，微増及び横ばいに推移しているのに対し，女子においては年々下降傾向にある。特に，図1のように男子と比較しても，総合評価で「D以下」の女子の生徒数の割合が多く，また，学年が上がるごとに増加する傾向があり，本校の重点課題といえる。これらほとんどの生徒について運動機会が体育の授業のみであり，これは本県が課題としてあげている高等学校女子の傾向とも重なるものである。



〔図1〕H26新体力テスト 高等学校女子

### (イ) 全校生徒を対象に行ったアンケート（H25. 3月実施）より

調査結果では，「スポーツをすることは得意ですか」に対して得意と回答した生徒は52%であったが，「スポーツをすることは好きですか」に対しては，84%の生徒が好きであるという回答であった。

その他の項目で肯定的な評価が95%以上であった項目は，「態度」，「技能」，「知識，思考・判断」の指導内容のうちの態度面「公正，協力，安全」についての項目であった。

また，肯定的評価が80%未満であった項目は，「授業で学んだことを学校生活や日常の生活で生かしている」，「将来継続して取り組みたい運動やスポーツが見付けられた」の項目であった。

以上ア～エから，次の2点の重点的な取組に集約することができる。

- 生徒の基本的な体力，運動技能及び知識の獲得を保證することで，運動の楽しさや喜びを味わわせ，関心や意欲の向上を図る。
- 協働的で主体的な活動を通して，論理的思考力及びコミュニケーション能力を育成するとともに，PDCAのサイクルを通して成果を意識した取組を充実させることにより，達成感や充実感を得られる活動となり，結果として，体力の向上及び生涯楽しめる運動やスポーツと出会うことができるようにする。

## (3) 研究の仮説

生徒の基本的な身体能力及び知識の獲得を保證し，論理的な思考や建設的な関わりをもって協働的・主体的な活動を継続することにより，明るく豊かで活力に満ちた社会生活及びスポーツライフを送る資質や態度を育むことにつながる。

## 2 研究内容

### (1) 発達の段階を踏まえた指導と評価の在り方

#### ア 6年間を見通した系統的な指導計画

##### (ア) 指導計画

平成27年度入学生 保健体育科年間指導計画

広島県立広島中・高等学校

| 月                | 4                                                                                         |                   | 5                                                                       |   |   |   | 6                                                       |   |   |    | 7                                                |    |    |    | 8                     |            | 9                                                   |                              |    |    | 10                                               |                                |    |    | 11                          |                      |    |    | 12                                              |                                |    |    | 1                                                    |           |    |  | 2 |  |  |  | 3 |  |  |  | 備考 |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|-------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---------------------------------------------------------|---|---|----|--------------------------------------------------|----|----|----|-----------------------|------------|-----------------------------------------------------|------------------------------|----|----|--------------------------------------------------|--------------------------------|----|----|-----------------------------|----------------------|----|----|-------------------------------------------------|--------------------------------|----|----|------------------------------------------------------|-----------|----|--|---|--|--|--|---|--|--|--|----|
|                  | 1                                                                                         | 2                 | 3                                                                       | 4 | 5 | 6 | 7                                                       | 8 | 9 | 10 | 11                                               | 12 | 13 | 14 | 15                    | 16         | 17                                                  | 18                           | 19 | 20 | 21                                               | 22                             | 23 | 24 | 25                          | 26                   | 27 | 28 | 29                                              | 30                             | 31 | 32 | 33                                                   | 34        | 35 |  |   |  |  |  |   |  |  |  |    |
| 中学校<br>1学年<br>体育 | 3単位                                                                                       | 体づくり<br>運動<br>(6) | 陸上競技<br>短距離走<br>リレー・<br>ハードル走<br>(12)                                   |   |   |   | 武道・ダンス①<br>剣道・<br>現代的な<br>リズムのダンス<br>(7)                |   |   |    | 武道・<br>ダンス②<br>剣道・<br>現代的なリ<br>ズムのダン<br>ス<br>(7) |    |    |    | 体づく<br>り運<br>動<br>(3) | ダンス<br>(6) |                                                     | 球技<br>ネット型<br>バレーボール<br>(12) |    |    |                                                  | 器械運動<br>マット運動<br>跳び箱運動<br>(14) |    |    |                             | 陸上競技<br>長距離走<br>(10) |    |    |                                                 | 球技<br>ゴール型<br>バスケットボール<br>(13) |    |    |                                                      |           |    |  |   |  |  |  |   |  |  |  |    |
|                  |                                                                                           |                   |                                                                         |   |   |   | 保健<br>(4)                                               |   |   |    |                                                  |    |    |    |                       |            |                                                     | 保健<br>(4)                    |    |    |                                                  |                                |    |    |                             | 体育理論<br>(3)          |    |    |                                                 |                                |    |    |                                                      | 保健<br>(4) |    |  |   |  |  |  |   |  |  |  |    |
| 中学校<br>2学年<br>体育 | 3単位                                                                                       | 体づくり<br>運動<br>(6) | 陸上競技<br>跳躍（走り幅跳び・<br>走り高跳び）<br>(10)                                     |   |   |   | 球技<br>ベースボール型<br>ソフトボール<br>(14)                         |   |   |    | 体づく<br>り運<br>動<br>(3)                            |    |    |    | ダンス<br>(6)            |            | 武道・ダンス①<br>(剣道/柔道)<br>・ダンス<br>(9)                   |                              |    |    | 武道・ダンス②<br>(剣道/柔道)<br>・ダンス<br>(9)                |                                |    |    | 球技<br>ネット型<br>バレーボール<br>(8) |                      |    |    | 陸上競技<br>長距離走<br>(9)                             |                                |    |    | 球技<br>ゴール型<br>バスケットボール<br>(10)                       |           |    |  |   |  |  |  |   |  |  |  |    |
|                  |                                                                                           |                   |                                                                         |   |   |   | 保健<br>(6)                                               |   |   |    |                                                  |    |    |    |                       |            |                                                     | 保健<br>(6)                    |    |    |                                                  |                                |    |    |                             | 体育理論<br>(3)          |    |    |                                                 |                                |    |    |                                                      | 保健<br>(6) |    |  |   |  |  |  |   |  |  |  |    |
| 中学校<br>3学年<br>体育 | 3単位                                                                                       | 体づくり<br>運動<br>(6) | 選択1(10)<br>陸上競技<br>(短距離<br>ハードル走)<br>器械運動<br>(平均台/マット・鉄棒)<br>から<br>1つ選択 |   |   |   | 選択2(14)<br>球技 ベースボール型<br>ソフトボール<br>武道(柔道/剣道) から<br>1つ選択 |   |   |    | 体づく<br>り運<br>動<br>(3)                            |    |    |    | ダンス<br>(6)            |            | 選択3(11)<br>球技<br>(ゴール型 サッカー<br>/バスケットボール)<br>から1つ選択 |                              |    |    | 選択4(14)<br>球技 ネット型<br>バレーボール<br>武道(柔道/剣道) から1つ選択 |                                |    |    | 陸上競技<br>長距離走<br>(10)        |                      |    |    | 選択5(10)<br>球技(ネット型 テニス<br>/バドミントン/卓球)<br>から1つ選択 |                                |    |    | ※ 選択<br>2・4の<br>いずれか<br>で武道剣<br>道を選択<br>すること<br>とする。 |           |    |  |   |  |  |  |   |  |  |  |    |
| 学校行事等<br>(体育的行事) | ・新体力テスト<br>・中間考査<br>・文化祭<br>・期末考査<br>・運動会<br>・中学校球技大会<br>・中間考査<br>・期末考査<br>・学年末考査<br>・卒業式 |                   |                                                                         |   |   |   |                                                         |   |   |    |                                                  |    |    |    |                       |            |                                                     |                              |    |    |                                                  |                                |    |    |                             |                      |    |    |                                                 |                                |    |    |                                                      |           |    |  |   |  |  |  |   |  |  |  |    |

| 月                     | 4                                                                                            |                   |   | 5 |                                                                                               |   | 6 |                                                    |   | 7  |                                   |    | 8  |                                                                         |    | 9  |                                                    |    | 10 |                                                                 |    | 11 |                       |    | 12 |                                                                 |    | 1  |                                              |    | 2  |                                                 |    | 3  |                                    |  | 備考 |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|---|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|----------------------------------------------------|---|----|-----------------------------------|----|----|-------------------------------------------------------------------------|----|----|----------------------------------------------------|----|----|-----------------------------------------------------------------|----|----|-----------------------|----|----|-----------------------------------------------------------------|----|----|----------------------------------------------|----|----|-------------------------------------------------|----|----|------------------------------------|--|----|
|                       | 1                                                                                            | 2                 | 3 | 4 | 5                                                                                             | 6 | 7 | 8                                                  | 9 | 10 | 11                                | 12 | 13 | 14                                                                      | 15 | 16 | 17                                                 | 18 | 19 | 20                                                              | 21 | 22 | 23                    | 24 | 25 | 26                                                              | 27 | 28 | 29                                           | 30 | 31 | 32                                              | 33 | 34 | 35                                 |  |    |
| 高等<br>学校<br>1学年<br>体育 | 3単位                                                                                          | 体づくり<br>運動<br>(6) |   |   | 選択1<br>(13)<br>陸上競技<br>器械運動<br>(マット運動)<br>ダンス                                                 |   |   | 必修1(13)<br>球技<br>〔ネット型<br>バレーボール<br>テニス<br>武道(弓道)〕 |   |    | 体づくり<br>運動<br>(5)                 |    |    | ダンス<br>現代的なリズム<br>のダンス<br>創作ダンス<br>(10)                                 |    |    | 必修2(13)<br>球技<br>〔ネット型<br>バレーボール<br>テニス<br>武道(弓道)〕 |    |    | 必修3(13)<br>球技<br>〔ネット型<br>バレーボール<br>テニス<br>武道(弓道)〕              |    |    | 陸上競技<br>(長距離走)<br>(8) |    |    | 選択2(18)<br>球技<br>〔ゴール型<br>サッカー/バスケットボール<br>武道(柔道/剣道)〕           |    |    | 体育理論(6)                                      |    |    | から1つ選択                                          |    |    | ※ 必修<br>1～3に<br>おいて、<br>3科目必<br>修。 |  |    |
| 保健                    | 1単位                                                                                          | 現代社会と健康           |   |   |                                                                                               |   |   |                                                    |   |    |                                   |    |    |                                                                         |    |    |                                                    |    |    |                                                                 |    |    |                       |    |    |                                                                 |    |    |                                              |    |    |                                                 |    |    |                                    |  |    |
| 高等<br>学校<br>2学年<br>体育 | 2単位                                                                                          | 体づくり<br>運動(6)     |   |   | 選択1(16)<br>器械運動(平均台運動)<br>球技<br>〔ネット型 バレーボールⅠ<br>ゴール型 バスケットボールⅠ<br>ベースボール型 ソフトボールⅠ<br>から1つ選択〕 |   |   | 体づくり<br>運動<br>(4)                                  |   |    | ダンス<br>現代的な<br>リズムの<br>ダンス<br>(4) |    |    | 武道Ⅰ(柔道/剣道)<br>球技<br>ネット型 バレーボールⅡ<br>テニスⅠ<br>〔ベースボール型 ソフトボールⅡ<br>から1つ選択〕 |    |    | 陸上競技<br>(長距離走)<br>(8)                              |    |    | 選択4(12) 球技〔ネット型 卓球Ⅰ<br>ゴール型 サッカーⅠ<br>ダンス 現代的なリズムのダンス<br>から1つ選択〕 |    |    | 体育理論<br>(6)           |    |    |                                                                 |    |    | ※ Ⅱの<br>選択は、<br>原則Ⅰを<br>履修して<br>いる場合<br>に限る。 |    |    |                                                 |    |    |                                    |  |    |
| 保健                    | 1単位                                                                                          | 生涯を通じる健康          |   |   |                                                                                               |   |   |                                                    |   |    |                                   |    |    |                                                                         |    |    |                                                    |    |    |                                                                 |    |    |                       |    |    |                                                                 |    |    |                                              |    |    |                                                 |    |    |                                    |  |    |
| 高等<br>学校<br>3学年<br>体育 | 2単位                                                                                          | 体づくり<br>運動<br>(4) |   |   | 球技〔ゴール型 サッカーⅡ<br>ネット型 バレーボールⅢ/テニスⅡ<br>ベースボール型 ソフトボールⅢ<br>武道Ⅱ(柔道/剣道)〕                          |   |   | 選択1(18)<br>から1つを選択                                 |   |    | 体づくり<br>運動<br>(4)                 |    |    | ダンス<br>フット<br>ダンス<br>(4)                                                |    |    | 選択2(16)<br>球技〔ネット型 バレーボールⅣ/テニスⅢ<br>ゴール型 サッカーⅡ〕     |    |    | 陸上競技<br>ダンス 創作ダンス<br>から1つ選択                                     |    |    | 体育理論<br>(6)           |    |    | 選択3(18)<br>球技〔ゴール型 バスケットボールⅡ<br>ネット型 バドミントン/卓球Ⅱ/テニスⅣ<br>から1つ選択〕 |    |    |                                              |    |    | ※ Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ選<br>択は、原<br>則Ⅰを履<br>修してい<br>る場合に<br>限る。 |    |    |                                    |  |    |
| 学校行事等<br>(体育的行事)      | ・新体力テスト<br>・中間考査<br>・文化祭<br>・高3球技大会<br>・期末考査<br>・運動会<br>・中間考査<br>・高1、2球技大会<br>・学年末考査<br>・卒業式 |                   |   |   |                                                                                               |   |   |                                                    |   |    |                                   |    |    |                                                                         |    |    |                                                    |    |    |                                                                 |    |    |                       |    |    |                                                                 |    |    |                                              |    |    |                                                 |    |    |                                    |  |    |

※網掛けはバレーボール及びテニスの必修・選択の単元を示している。

### (イ) 設定のポイント

a 「球技（ゴール型）」の「空間を作り出すなどの動き」の習得のための工夫  
ボールを持っていない選手の動き…バスケットボール→サッカー

b 高等学校2年次以降の各種目の積み上げ選択履修制  
原則、「Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳ」の積み上げ選択履修とする。

c 運動を苦手とする生徒及び女子に対応した計画

(a) 単元の学習時間の確保（大単元化）→技能面を保証し、「卒業後に少なくとも一  
つの運動やスポーツを継続すること」ができるようにする。

(b) 重点種目（テニス、バレーボール）を設定し、学習（選択）機会を増加する。

テニス（Ⅰ～Ⅳ）を選択履修した場合→ 79時間+10時間（中学校）

バレーボール（Ⅰ～Ⅳ）を選択履修した場合→ 77時間+34時間（中学校）

d 知識・技能面の習得を重視し、技能の転移を意識した計画

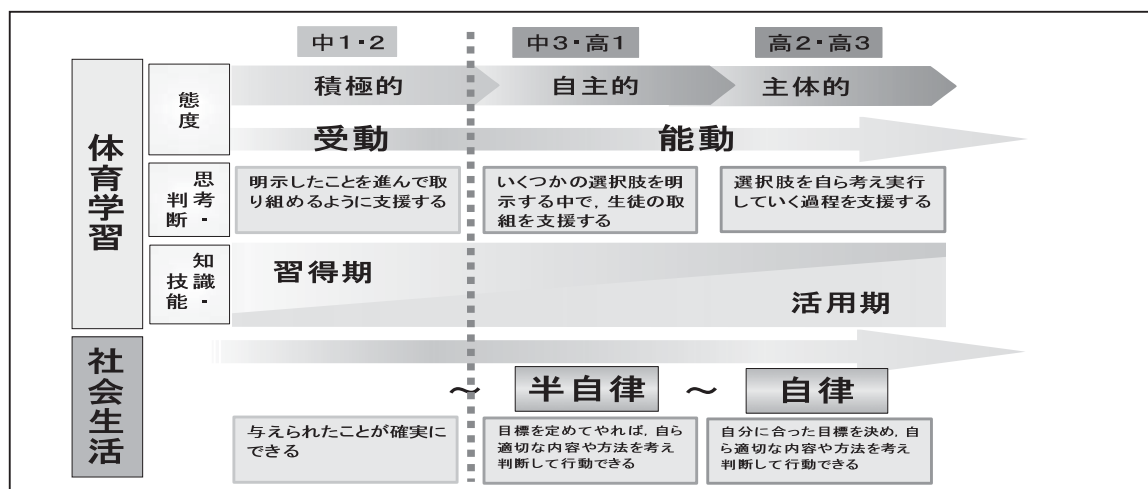
(a) 空間にあるボールをすばやく認知して動く能力

(b) 投動作（ソフトボール、やり投げ（ターボジャブ）、バスケットボール等）

(c) ボールを捕える動作

- e 我が国固有の伝統と文化に触れることができるようにした指導計画
- (a) 高1での弓道（クロードスキル）の必修化（13h）
- すべての生徒が学ぶことができるように高1での必修としている。
- 武道（弓道）の取扱いについては、武道（柔道・剣道）に加えて行う。
- (b) 各学年（中1は剣道のみ）での柔道及び剣道（オープンスキル）の選択
- 中3以降で武道（柔道・剣道）を選択できるように設定している。

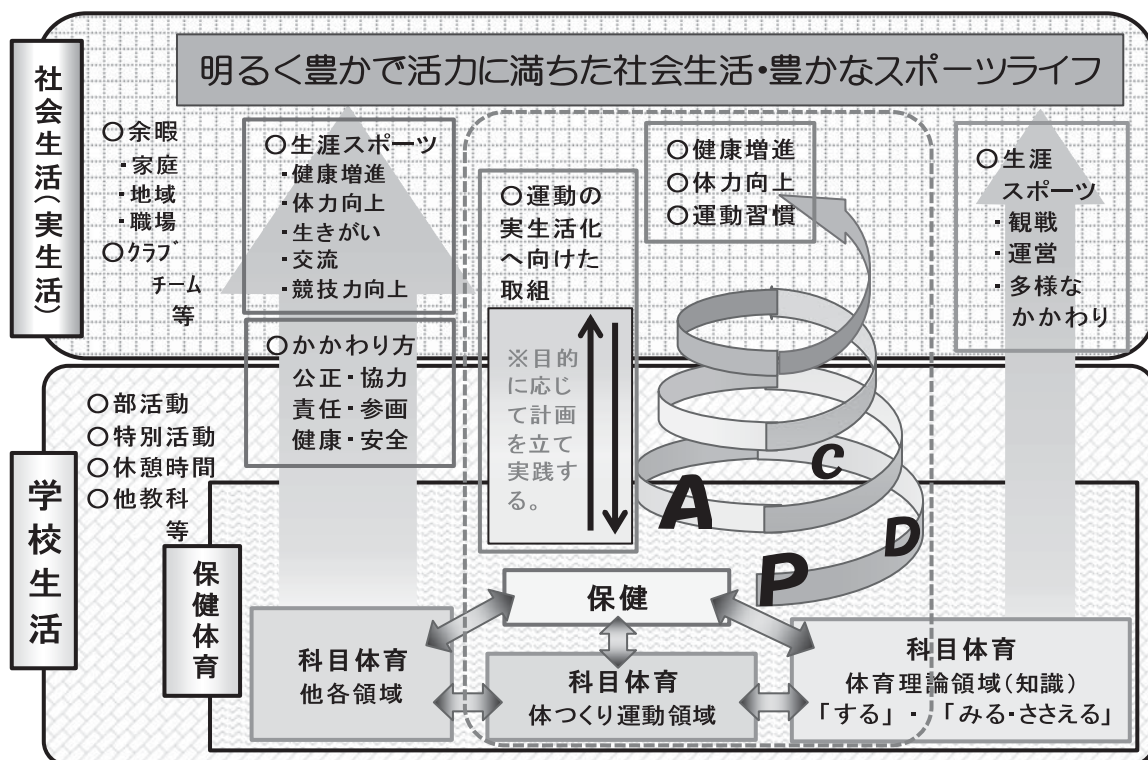
#### イ 態度の発達段階を踏まえた授業づくり



〔図2〕体育学習と社会生活における態度の発達

図2に基づき、態度の発達段階に着目した授業づくりを行った。

#### ウ 科目体育と科目保健の関連



〔図3〕科目体育（各領域）－体育理論領域－科目保健の関連した指導の考え方

科目体育（各領域）、体育理論領域、科目保健を関連させ、社会生活につながる授業づくりを行った（図3）。

## （２）運動への関心や意欲を高め、自ら考え工夫する力を身に付ける指導方法の工夫

### ア 学習への意欲を促し、課題を解決する能力を高める指導の工夫

#### （ア）PDCAサイクル

##### （イ）体育理論との関連付け

- a 体の動かし方や運動の行い方に関する知識
  - b 体力や健康・安全に関する知識
  - c 運動実践につながる態度に関する知識
  - d 生涯スポーツの設計に関する知識
- 「する（できる）・みる・支える」の捉えとリンク

##### （ウ）保健との関連付け

「運動と健康」…メッツ、エネルギー消費量・摂取量

### イ 協働的な学びを活用した指導の工夫

#### （ア）学習形態の工夫

- a 男女共習，ペア・トリオ・グループなどでの形態
  - b 「する・みる・支える」立場
- 単元終末のイベント（競争性を取り入れ、他のクラスとの交流戦）の実施

#### （イ）フィードバック機能の充実

- a 自己評価，相互評価，教師からの評価・支援（効果的な発問，言葉かけ）
  - b ICT（ipad）の活用（自分のフォームや動き，モデルとなる動きの確認等）
  - c 言語活動の充実 … ことば科（中学校）における論理的な思考力・表現力育成の取組との関連
- ・ アウトプットの機会（互いに情報を共有し，自分の言葉で発信する。）
  - ・ 学習ノート（学習シート）の活用

## 3 実践事例・実践の記録（〔 〕 破線四角囲いについては，学習ノート等の生徒記述からの抜粋）

### 事例 1 単元：球技「ネット型」バレーボール

○対象：高等学校第1学年

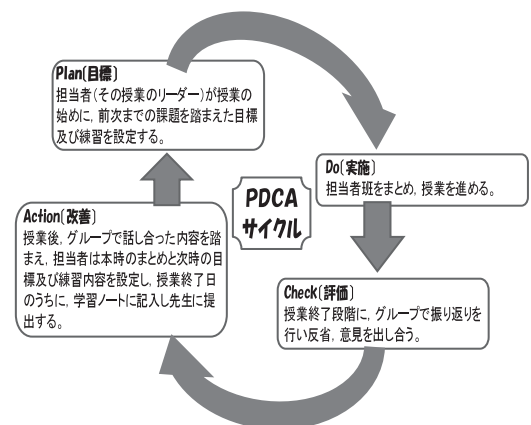
#### ① PDCAサイクル

グループごとにその授業の担当者（リーダー）を中心として授業を展開した。

課題解決的な学習を行い，最終的な目標に向け，少しずつステップアップしていくイメージで行った（図4）。

#### ② 学習ノート（班ノートの活用）

- ・ 学習ノートを使うことで，グループ内の成果や課題が共有できた。
- ・ 課題を解決してきた過程，場の設定を工夫した内容，できるようになったこと，できない事などを記録に残し，次の学習設定に役立てることができた。
- ・ 課題の意識化を継続的に図ることができた。
- ・ 教師が生徒の実態，変容を的確に把握することができ，生徒との関わりや支援すべき内容について考える上で有効であった。



〔図4〕PDCAサイクルのイメージ



## 事例2 単元：武道（弓道）

○対象：高等学校第1学年 ○本時：（第6時限目／13時限）

○本時の目標：仲間の技術的課題を見付け、課題解決に向けた練習ができるようにする。

### ＜本時の流れ（一部抜粋）＞

|             |                                                                             |                    |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 展開<br>(30)  | 4 全体で「射法八節」の確認<br>・ゴム弓で節々でのポイントを確認しながら行う。                                   | ①一斉指導              |
|             | 5 5人1組でゴム弓の見取り稽古<br>・同時打ち起こしさせることで、形の確認をする。<br>・列の先頭が発声する。<br>・相互に確認しながら行う。 | ②グループ学習            |
|             | 6 演武(グループ発表)<br>・各グループの演武<br>・各班の採点表の記録                                     | ③学習カード(チェックシート)の活用 |
| まとめ<br>(10) | 7 各班で振り返り<br>・タブレットにより確認<br>・他の班の評価表により確認<br>・講師からの講評により確認                  | ④相互評価              |
|             |                                                                             | ⑤ICTの活用            |
|             | 7 学習のまとめ<br>・評価カードを基に話し合った内容について全体で共有する。<br>・学習目標に対し自己評価を行い、成果と課題を振り返る。     | ⑥教師の評価             |
|             |                                                                             | ⑦アウトプット(情報の共有)     |
|             |                                                                             | ⑧自己評価              |



自己評価（タブレット活用）

① 基礎・基本となる知識、技能の習得段階では、一斉指導による授業展開で行う。本時は最終確認として実施。

② 男女共習グループでの活動を行う。互いに気付いたことを意見交換することにより確認した。



グループ活動

・お互い修正すべき点を確認しながら練習できたので、その点はよくできた。

③ シートはチェックポイントをキーワード化して確認し易くした。

・ゴムの位置を整えたり体配を意識したりと普段の授業より細部までこだわって活動できた。



演武（発表）



他者評価（鑑賞・評価）

④ 班別の評価カードを基に、「修正すべき点」や「参考となる点について評価することで、他者の良さや頑張りを認め合ったり、賞賛したり互いに高め合える雰囲気を作った。

- ・他の班を見て、できていない部分など自分も気を付ける点、意識しないといけない所が確認できた。
- ・弓道部の人との動きの比較で、一つ一つの動きに余裕をもって行うことが大切だとわかった。

⑤ 自分の動きのイメージと映像（タブレット）とを照らし合わせ振り返りを視覚的に行った。

- ・視線の向きや背筋を伸ばす、肘の角度、弓を上げる高さ、ゴムの引き具合など課題が多く見つかった。
- ・打ちおこしの時、手が平行まで上がっていなかったり、顔の向き、姿勢がおかしかったりしていた。
- ・自分が想像していた形とは全く違い、動きが左右対称になっておらず、とても驚いた。

⑥ 生徒は相互評価した内容と講師の評価を照らし合わせ、評価基準を明らかにした。

⑦ 各班で評価カードを基に話し合った内容を簡潔にまとめ、発表した。

⑧ 本時の気づきを各個人で記入する学習カードに記録することで、振り返りを行うとともに、次時の活動の見通しを持つことができ、意欲の向上につながった。

○「弓道で学んだことを、今後の生活にどのように生かしていきたいですか」に対して

- ・私が一番大切だと思ったのは、「以て中ると言うべし」である。課題でも他のものを写すと楽だが、自分の力になったとはいえない。不正をして得られた結果に意味はない。
- ・「弓道は全てに通ずる」とは、その人の心の中や日頃の行動が射にあらわれるということだった。正しく中るには、まず自分自身を見つめ直すこと。そういったことは全ての行動に共通すると思う。
- ・弓道の授業では基本、礼儀を大切にすること、人のせいにしないことなど弓道のみでなく、スポーツ全般の根本となることを知ることができた。これは今後部活動に活かしていきたい。

- ・弓道の授業で学んだことは、基本を大切にしてい一つ一つのことをやり遂げることです。自分自身、普段の生活でできているか振り返る良い機会となった。
- ・精神をしっかりと安定させ、自分自身を見つめることが大切だとわかった。何事も集中して自分らしく正しくできた時こそ本当にできたと言え、たまたまできたことは、それは本当の自分の実力ではないということを自覚していきたい。結果にこだわることも大切だが、結果よりも過程を大切にする弓道の考え方は新鮮でとても勉強になった。

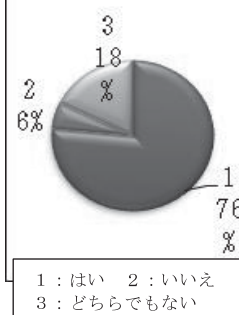
### 事例3 単元：体育理論

○対象：高等学校第2学年

#### 単元計画〔2 運動やスポーツの効果的な学習の仕方〕

| 時限 | 学習指導要領の内容                                                                      | 主な活動内容                                                                                                                                      | 学習形態・方法       |
|----|--------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 1  | ア 運動やスポーツの技術と技能<br>△体系的な捉えの有効性<br>○運動・スポーツの技術と技能の関係<br>○技術の型の理解と効果的な練習方法       | ・作戦、戦術、戦略などを、例文を読み分類する。<br>・各種スポーツの技術を付箋に書き出し、グループでKJ法を用いて型の分類を行う。                                                                          | グループ学習<br>KJ法 |
| 2  | イ 運動やスポーツの技能の上達過程<br>○上達過程の3段階<br>△プラトーやスランプ<br>○上達過程の段階や技能の特徴及び目的に即した効果的な練習方法 | ・自己の運動体験における技能の上達グラフを書き、グラフの変化に影響を与えた要因をまとめる。<br>・プラトーやスランプなど、上達の過程における特徴に触れる。<br>・各種スポーツにおける、技能の自己評価を行い、評価の根拠を書き出す。その根拠をもとに、上達過程の3段階を考え出す。 | グループ学習        |
| 3  | ウ 運動やスポーツの技能と体力の関係<br>○技能と体力の関係<br>○個々の技能に応じた体力の必要性                            | ・体力を構成する要素を考える。<br>・スポーツの技能を上達させるために、高めるべき要素を選び、練習メニューを考える。                                                                                 | グループ学習        |
| 4  | エ 運動やスポーツの技能と体力の関係<br>○期待される成果に応じた技能と体力の高め方                                    | ・筋力トレーニング、持久力を高めるトレーニング、健康的なダイエットについて、正しい方法や確実な知識を得るために、IT検索を行いペアでまとめる。                                                                     | ペア学習<br>IT検索  |
| 5  | エ 運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方<br>○運動・スポーツに伴う危険とその配慮<br>○スポーツ障害<br>○けがの予見・回避と適切な対処法 | ・各自のスポーツでのけが体験をグループで出し合い、要因と対策をまとめる。<br>・スポーツ障害の例と予防法を知る。                                                                                   | グループ学習        |
| 6  | エ 運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方<br>○気象条件や自然環境の変化などに伴う危険と回避                           | ・スポーツに伴う危険を、季節別にまとめ、対策を考える。<br>・ネイチャースポーツに伴う危険をまとめ、対策を考える。                                                                                  | グループ学習        |

「今後の運動（部活動、体育、日常の運動）に効果があるか」



〔図5〕  
授業後アンケート

### 事例4 単元：陸上競技（長距離走〔駅伝〕）、体づくり運動（持久走）

○対象：高等学校第1学年

#### ① 体育理論との関連付け（「する・みる・支える」立場の経験）

全ての生徒がチームに所属し、一人一役（必ず選手または補助員となる）で駅伝大会に参加することで、スポーツとの関わり方を学ぶ。その際、体育理論で取り扱う「する・みる・支える」と関連させた。

- ・「する＝選手として参加」…チームの代表、一員として参加する。チームの団結力向上。

・精一杯走り、たすきをつなぐことだけ考えて走った。  
たくさんの応援で頑張れた。

- ・「みる＝応援する立場として参加」チームでの一体感を感じることができ、参画意識が高まった。

- ・自分は走っていないが、チームの一員としてしっかり応援した。
- ・「ナイスファイト」の声かけでチーム一丸となった感があった。

- ・「支える＝運営する立場として参加」

自分の役割に責任を持つとともに、協力して運営しようとする意欲の向上。先導者、救護者、タイム計測、着順判定、本部記録、競技者係、コース監視員等

- ・選手への声かけで走る人が頑張ろう、頑張れたと思える環境づくりに励んだ。
- ・選手が走りやすい、たすきをつなぎ易い環境整備を行った。選手誘導、観戦者への呼びかけ。
- ・カーブで滑りやすそうな危ない箇所立ち、危険回避に心がけた。気を付けるように喚起。

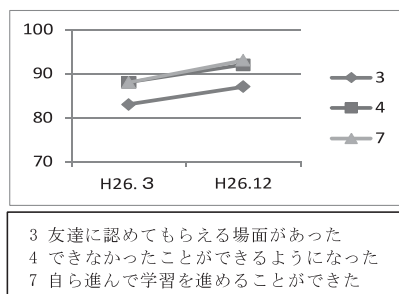
- ② 保健授業（生活習慣病と日常の生活行動（運動と健康）の内容）との関連付け
- ・ 練習時に目的や運動強度に応じた走り（ターゲットゾーンを設定）を行い，自らの持久力や運動強度と心拍数の関係を確認した。そのことで，より効果的に練習計画の立案や体力向上を図ることにつながった。
  - ・ メッツ（身体運動の強さ），メッツ・時（エクササイズ，身体運動量）を意識して生活を送ることを学習。日々のエネルギーの摂取及び消費のバランスを考えて生活できるようにすることを目的とした。
  - ・ 長期休暇中を使い，日々の生活と運動量の関係について確認した。
- 「今後の運動や日常生活に生かしていきたいこと」について

- ・ 普段の何気ない作業においても3.3EX/日（16～64歳では強度3メッツ以上の身体活動を週に23EX行うことを推奨）をクリアできると知った。今後の生活でもメッツを意識して生活したい。
- ・ 冬休みを振り返ってみると，いかに自分が日頃運動していないかがわかった。つまり，無意識の状態では運動することができない身である以上，意識的に体を動かさないといけないと思った。
- ・ 登下校の計約60分の歩きをだらだらしないなど，自らの生活をもう一度振り返ってみたい。

## 4 研究のまとめ

### （1）成果

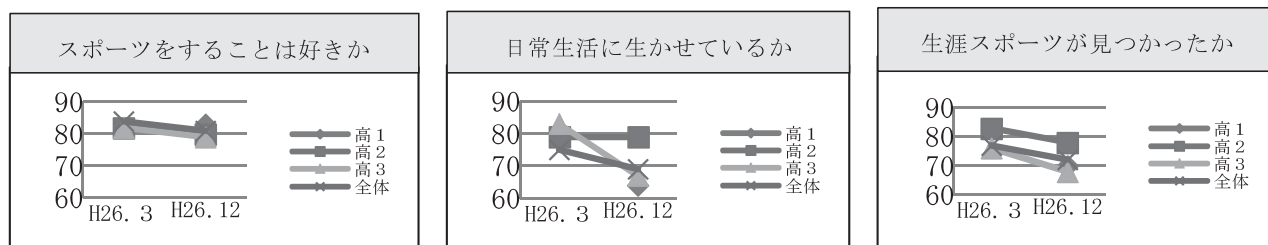
- 弓道や長距離走などの種目の特性を踏まえた取組や日常生活との関連付けにより，「今後の生活に生かしていきたいこと」について，肯定的な回答が多く見られた。
- 6年間の系統的な学びについて整理していくなかで，中高（校種間），科目保健と体育（科目間），また，体育理論，体づくり運動及び各領域（領域間）で関連付けて行うことで，より思考が深まる学びとなり，少しずつではあるが実生活につながる取組になっていると考える。



〔図6〕伸びた項目の推移

- アンケート調査により5ポイント以上伸びた項目は，図6のとおりである。これらは活動の基礎となる部分で，学習への意欲を促し，課題を解決する能力を高める指導及び協働的な学びを活用した指導等の工夫を行ってきた成果であると考えられる。今後も引き続き継続して行い，経年変化を確認しながら指導方法の在り方を模索していきたい。

### （2）課題



〔図7〕課題ととらえていた項目の推移

- 平成26年3月時点で80%未満で課題ととらえていた，「授業で学んだことを学校生活や日常の生活で生かしている」，「将来継続して取り組みたい運動やスポーツが見つかった」の2項目と，「スポーツをすることは好きですか」の項目について，肯定的な回答が



いずれも低下している（図7）。各領域・種目において、今後も運動やスポーツが楽しい、必要であると感じる取組の継続と、体育授業と実生活を関連付け、活用場面を意識させる授業づくりの工夫を行い、結果としてスポーツの習慣化及び体力の向上につなげていきたい。

**特別支援学校部会**



瀬戸の海

「写真提供：広島県」

# 第12分科会

## 研究主題

環境づくりに視点を当てた「やってみたい、  
やってみよう、もっとやりたい」と思える体育学習  
広島市立広島特別支援学校

## 日 程

9:00 9:50 10:40 10:45 11:35 11:40 11:55 12:40 12:55 13:05 13:20 14:10 14:55 15:00

|        |           |        |           |             |              |        |             |      |      |      |      |      |
|--------|-----------|--------|-----------|-------------|--------------|--------|-------------|------|------|------|------|------|
| 受<br>付 | 公開授業<br>1 | 移<br>動 | 公開授業<br>2 | アンケート<br>回収 | 教材・教員<br>展示会 | 昼<br>食 | アトラク<br>ション | 開会行事 | 研究発表 | 研究協議 | 指導講評 | 閉会行事 |
|--------|-----------|--------|-----------|-------------|--------------|--------|-------------|------|------|------|------|------|

## 公開授業案内

| 区 分    | 授 業                                        | 場 所     |
|--------|--------------------------------------------|---------|
| 公開授業 1 | 小学部第5学年 単一<br>いろいろな運動（いろいろな器械・器具・用具を使った運動） | 体育館     |
| 公開授業 1 | 高等部第2学年 単一Ⅲ類型<br>いろいろな運動（水泳）               | プール     |
| 公開授業 2 | 小学部第2・3学年 重複<br>基本的な運動                     | 機能訓練室 2 |
| 公開授業 2 | 中学部第2・3学年 単一<br>いろいろな運動（球技）                | 体育館     |

## 学校所在地



## 交通機関

最寄駅 JR「広島」駅 下車

### ◆バスを御利用の場合

広島バス21号線（広島港・グランドプリンスホテル行き）

「広島港」下車→徒歩約15分

### ◆市内電車を御利用の場合

1・3・5号線（広島港行き）

「広島港」下車→徒歩約15分





# 広島市立広島特別支援学校



所在地：〒734-0013 広島県広島市南区出島四丁目1番1号

連絡先：TEL (082) 250-7101 FAX (082) 250-7102

E-mail：yougo-s@e.city.hiroshima.jp

H P：http://www.hiroshimayogo.edu.city.hiroshima.jp/

校長：中 尾 秀 行

児童生徒数：小学部 107名，中学部 108名，高等部 269名  
合計 484名（98学級）

## ◎教育目標

児童生徒の自立と社会参加を目指し，一人一人の力を伸ばして，主体性をもって豊かに生きる人間を育てる。

## ◎学校紹介

本校は，平成24年に高等部に職業コースが新設され，同年9月に現在の地に移転・開校をした。移転・開校後，児童生徒数の増加が著しく，知的障害特別支援学校であるが，比較的軽度と言われる生徒から，医療的ケアの必要な，いわゆる重度・重複障害と言われる児童生徒まで，幅広い実態の児童生徒が通っている。児童生徒は，広島市中区，東区，西区，南区，安芸区を就学区域としており，公共交通機関やスクールバス（20コース），保護者等の送迎で通学している。地域における特別支援教育のセンター的機能を発揮するため，校舎内に「サポートセンター」を設置し，教育相談主任を中心として，地域の幼・小・中・高等学校等のみならず，障害のある本人及び保護者への支援を行っている。

# 広島市立広島特別支援学校

## 1 研究の構想

### (1) 研究主題

環境づくりに視点を当てた「やってみたい、やってみよう、もっとやりたい」と思える体育学習

### (2) 研究主題設定の理由

平成20年1月の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」では、現在の子どもの状況として、「運動する子どもとそうでない子どもの二極化」、「子どもの体力の低下傾向が依然深刻」であること、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成が十分に図られていない」ことなどが課題として挙げられている。本校においても、その状況は顕著に見受けられる。特に肥満傾向の児童生徒の場合、肥満のため運動意欲が低下し運動不足となり、運動不足がさらに肥満を助長するといった悪循環に陥り、将来に及ぼす影響が危惧されている。本校学校教育目標である児童生徒の自立と社会参加を目指すためには、基本動作の習得や基礎体力の向上を図ることは不可欠である。そして、生涯にわたって運動するための豊かな資質や能力を育成するためには、体を動かすことの楽しさを伝えること、児童生徒が体を動かすことを好きになることが大切である。

また、特別支援学校学習指導要領によると、知的障害のある児童生徒の学習上の特性として、「学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場で応用されにくいことや、成功経験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないこと」などが挙げられている。体育学習においても、児童生徒が主体的に活動に向かうためには、児童生徒の内発的な動機付けや、動きや活動に対する理解を促す「環境づくり」が必要である。

本校教職員対象のアンケート調査（平成25年3月実施）においても、「体育学習を通して、育てたい子ども、子どもに付けたい力」として、「体を動かす楽しさを味わえる児童生徒」、「運動や様々な活動ができる体力を保持している児童生徒」、「いろいろな運動に取り組める能力」が挙げられた。「どのような体育の授業を行いたいか」という質問項目に対しては、「運動量を確保した授業」、「子どもの動きを引き出せる授業」という回答が多く見られた。本校の授業実践において、そのための支援を工夫していく必要性が求められる。

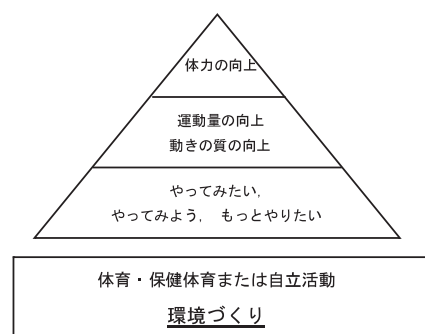
以上のような本校の児童生徒の実態や障害特性、教職員の体育学習についての意識から、「児童生徒自身が体を動かすことに興味をもち、その楽しさを感じることができる授業」、「適切に運動量を確保し、動きを引き出していける授業」の実現を目指すこととした。児童生徒が「やってみたい、やってみよう、もっとやりたい」と興味・関心や意欲をもち、主体的に活動に向かうためには、学習環境の整備、支援の工夫等、「環境づくり」が必要である。そこで、「環境づくりに視点を当てた」指導法の工夫を行うことで、『「やってみたい、やってみよう、もっとやりたい」と思える体育学習』の充実を図っていくことを本校の研究主題として設定した。

### (3) 研究の仮説

体育科・保健体育科または自立活動において、環境づくりに視点を当てた授業づくりを行うことによって、児童生徒の「やってみたい、やってみよう、もっとやりたい」という活動への意欲が高まり、運動量の増加や動きの質の向上が見られるであろう。

活動への意欲の高まりが、運動量の増加や動きの質の向上につながるという解釈から、仮説の検証は、環境づくりと運動量や動きの質の関係に焦点を当てて分析していくこととした。(図1)

なお、体育科・保健体育科を中心に研究を進めているが、本校では、教育課程上、指導形態として体育科または保健体育科を履修していない生徒がいるため、体育科・保健体育科に限らず、自立活動の「身体の動き」の区分の中の各項目の指導内容も含めて研究を進めることとした。



【図1 研究の概念図】

## 2 研究内容

本校では、研究の仮説に基づき、平成25年度には、児童生徒の意欲を高めるための「教材・教具の工夫」を中心に研究を進め、効果的な教材・教具を用いることで児童生徒の意欲が高まり、主体的な動きを引き出すことにつながることが分かった。平成26年度には、具体的かつ詳細な見取りをするために「評価シート」を作成し、児童生徒の動きの変容を評価することによって、授業における環境づくりの改善点が明確になり、体育科・保健体育科または自立活動における児童生徒の運動量の増加や動きの質の向上が見られた。

本年度は、一年次、二年次の研究の成果と課題を踏まえ、環境づくりと運動量や動きの質の関係に焦点を当てた授業づくりを更に深めることとした。特に、昨年度の成果物である「環境づくり事例集」や「指導内容一覧表」を参考にしながら、研究を進めてきた。

### (1) 発達の段階を踏まえた指導と評価の在り方

#### ア 「技能(できる)」、「態度(かかわる)」、「知識、思考・判断(わかる)」のバランスと系統性を踏まえた指導計画の作成

本校では近年、「キャリア教育」の視点を取り入れて「分かって動ける授業づくり」を行い、その中で「技能」、「関心・意欲・態度」、「知識、思考・判断」の三観点を踏まえた指導を行ってきた。しかし、バランスや系統性についての意識が十分ではなく、指導計画や指導案に反映させて記入することができていなかった。そこで、本年度は「授業づくりシート(図2)」にお

いて、児童生徒の「付きたい力」を掲げ、そこから導き出した指導目標を三観点で設定し、一単元において三回の評価を行うことで、この三観点のバランスと系統性をより意識して取り組むことができるようにした。

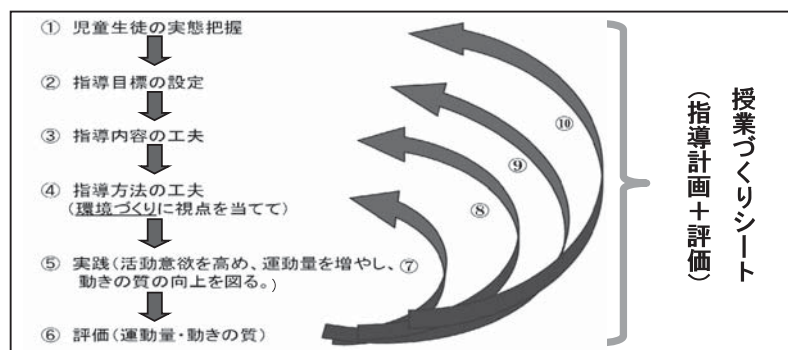
| 学部・学年等      |          |                |                      |    |    |
|-------------|----------|----------------|----------------------|----|----|
| 付きたい力       |          |                |                      |    |    |
| 単元名         |          |                |                      |    |    |
| 単元の目標       | ねらい・学習活動 | 手立て<br>(環境づくり) | 評価<br>(環境づくりに視点を当てて) |    |    |
|             |          |                | 1次                   | 2次 | 3次 |
|             |          |                |                      |    |    |
| <単元全体の振り返り> |          |                |                      |    |    |

【図2 授業づくりシート】

## イ 適切な学習評価の工夫（指導と評価の一体化）

授業づくりの手順(図3)に沿って、新体力テスト、本校版体力テスト、本校作成の発達段階別指導内容一覧表等を用いて①児童生徒の実態把握の実態把握を行った。実態把握の内容を基に②指導目標を設定し、「指導内容一覧表」を参考にして③指導内容の工夫を行った。そして、環境づくりに視点を当てて④指導方法の工夫に取り組み、⑤実践をし、⑥評価後には、必要に応じて⑦、⑧、⑨、⑩とフィードバックしていきながら、授業改善を行っていった。なお、「指導内容一覧表」は、学習指導要領を基に本校での体育科、保健体育科の指導内容を整理したものである。

授業づくりにおいて、「付けたい力」や単元の目標、ねらい・学習活動、手立て（環境づくり）を教員間で共有し、指導の成果と課題を整理し、指導と評価の一体化を図ることができるように「授業づくりシート（図2）」を用いて研究を進めることとした。



【図3 授業づくりの手順】

（富山大学人間発達科学部附属特別支援学校（2012）を参照して一部変更）

## （2）運動への関心や意欲を高め、自ら考え工夫する力を身に付ける指導方法の工夫

### ア 環境づくりについて

本校では、児童生徒が進んで（小学部）自主的に（中学部）、主体的に（高等部）活動するための環境全体を支援環境と捉え、支援環境を整える取組を「環境づくり」として授業づくりを行ってきた。

支援環境には、「物理的支援環境」と「人的支援環境」がある。学部研修会において、各学年・グループでの取組を交流したり、取組を振り返ったりする際、支援環境を四つの視点（表1）で整理しながら、より良い「環境づくり」について研修を進めていった。

【表1 環境づくりの四つの視点】

（富山大学人間発達科学部附属特別支援学校（2012）を参照して一部変更）

|      |     |                                                                                                                                                         |
|------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援環境 | 物理的 | <b>① 教材・教具、支援ツールの効果的な配置</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>動線の整理</li> <li>配置位置、間隔</li> </ul> <div>どこに置くか</div>                                  |
|      |     | <b>② 児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの活用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>理解を助ける</li> <li>動きを引き出す</li> <li>活動の終わりの明示</li> </ul> <div>何をどのように用いるか</div> |
| 支援環境 | 人的  | <b>③ 教師の役割</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>MTとSTの役割、連携</li> <li>立ち位置、動線</li> <li>効果的な支援の仕方</li> </ul>                                        |
|      |     | <b>④ 児童生徒の役割</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動のモデル</li> <li>係の役割</li> <li>位置、動線</li> <li>ペア・グループ活動</li> </ul>                               |

## イ 環境づくりの具体的取組について

### （ア）物理的支援環境

#### ① 教材・教具、支援ツールの効果的な配置

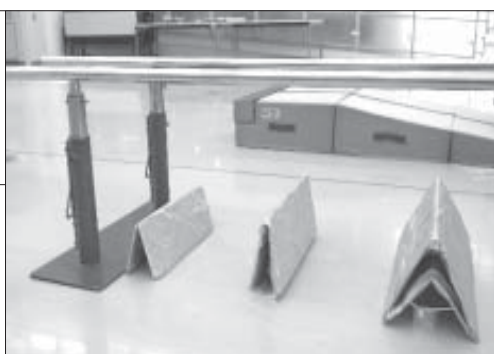
始点と終点が明確になるよう、また、動きのつながりが分かるように動線を整理したり、実態やねらいに合わせて教具を配置する位置や間隔を工夫したりする。



|                                                                            |                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>【中学部 第2・3学年】</p> <p>＜環境づくり＞</p> <p>足を踏み出す位置をケンステップ（輪状の教具）で示した。</p>      |  |
| <p>＜変容＞</p> <p>ケンステップによって足の位置を視覚的に捉えられたことで、生徒が自発的に足を踏み出す動きを引き出すことができた。</p> |                                                                                    |

## ② 児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの活用

活動内容の理解を助けるために、目標物や立ち位置を工夫したり、BGM、カード等を使用したりする。また、動きを引き出すために、教具を効果的に使用したり、達成感が味わえるようなシートを活用したりする。さらに、活動の終わりを明示するためにタイマーやシート等を活用する。

|                                                                                |                                                                                     |
|--------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>【小学部 第2学年】</p> <p>＜環境づくり＞</p> <p>膝を上げることを意識させるため、三角ハードルを順に大きくなるように設置した。</p> |  |
| <p>＜変容＞</p> <p>左足は、かかとから着地して、足裏全体で踏み出していたが、右足は、かかとから着地して、爪先で蹴り出す動きが見られ始めた。</p> |                                                                                     |

## （イ）人的支援環境

### ③ 教師の役割，連携，効果的な支援の仕方

MTとSTの役割分担を行う。必要に応じてOTやPTとも連携を図る。また、実態に合わせて、言葉掛けや立ち位置、動線等を工夫し、効果的な支援を行う。

|                                                                                |                                                                                      |
|--------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>【中学部 第2・3学年】</p> <p>＜環境づくり＞</p> <p>特定の児童生徒に付いて支援をするのではなく、器具や場に付いて指導をした。</p> |  |
| <p>＜変容＞</p> <p>生徒が教師に頼ることなく、主体的に取り組むようになったことにより、一つ一つの課題に向かうまでの時間が短くなった。</p>    |                                                                                      |

### ④ 他の児童生徒の位置，役割

児童生徒が活動のモデルや手本となる。そのときの活動位置を工夫する。係としての役割を担う。ペア・グループ活動を設定する。

|                                                                     |                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>【高等部 第1学年】</p> <p>＜環境づくり＞</p> <p>バディ同士で合図を送り合ったり、演技を支援したりした。</p> |  |
| <p>＜変容＞</p> <p>演技の流れを覚え、バディの友達を意識して、合図を送ることができるようになった。</p>          |                                                                                    |

### 3 実践事例

#### （1）平成26年度小学部第1・2・3学年ポレポレ11グループの取組（重複IB類型）

##### 体育科 基本的な運動「たからじまへレッツゴー！」

##### ア 児童の実態把握と「付けたい力」

本グループの児童は、全員自力歩行が難しく、他者からの介助を受けることで、自分で体を動かして移動する感覚がもちにくい。また、全員が体幹機能障害を有し、姿勢を安定させて手足を動かすことに困難さがある。以上の児童の実態を踏まえ、自ら体を動かすことで移動できるという実感をもち、運動機能をより高めてほしいという思いから、「移動」と「体幹強化」に焦点を当てた題材を設定した。

##### イ 指導目標の設定

- 個々の課題に応じて、各自の移動方法で目標まで移動することができる（技能）。
- 教師や友達と一緒に体を動かして楽しむことができる（態度）。
- 揺れや傾きに合わせたり、器具を使ったりして、体を動かそうとすることができる（知識、思考・判断）。

##### ウ 指導内容の工夫

児童の実態に合わせて、器具やSRCウォーカーを使用するなどの方法で進む「たんけんエリア」と、揺れや傾きに合わせて姿勢を維持しようとする動きを促す「ふねエリア」の二つのエリアに分けた。そして、二つのグループに分けて、交互に各エリアでの活動をすることで、待つ時間を活動時間に変え、活動時間を確保した。さらに、動きの幅を広げ、運動機能の発達にもつなげた。「たんけんエリア」では、しっかりと膝を持ち上げて自力歩行することを目標とする児童に対しては、足裏で踏ん張ったり、かかとで着地して爪先で蹴ったりするといった動きができるように、台車押し、マット登り、またぎ越し、バーを使用した支持歩行といった活動を設定した。また、脚に体重を乗せる感覚を養うために、SRCウォーカーで、両下肢に力を入れ、後方に蹴り出して進む活動をする児童もいる。「ふねエリア」では、例えば、バランスボールに乗って、前後・左右・上下に揺れたり傾いたりすることで、体を動かして、姿勢を維持しようとする動きができるようにした。また、下肢で体重を感じることが目標となる児童に対しては、椅子に介助座位で座り、前かがみの姿勢を取るといった活動を設定した。

## エ 指導方法の工夫（環境づくりの四つの視点）

### ① 物理的支援環境

＜教材・教具，支援ツールの効果的な配置＞

児童が好きなおもちゃを目標にして，ずりばいをする取組において，出発点と目標物の距離を徐々に伸ばしていくことにより，児童の意欲が伸び，積極的に活動する姿が見られた。



### ② 物理的支援環境

＜児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの利用＞

膝を上げることが意識できるように，三角ハードルを小さなものから徐々に大きくなるよう難易度を上げる設定をすることにより，横から上げるのではなく，膝を前に持ち上げて，自分の膝より高い三角ハードルをまたぎ越すことができた。



### ③ 人的支援環境

＜教師の役割，連携，効果的な支援の仕方＞

児童の動きや表情等の反応を丁寧に見取り，児童の力の入れ具合に合わせて，教師の手を添える位置や支援の力加減を細かく調整することにより，動きの始まりを引き出すことができた。



### ④ 人的支援環境

＜児童生徒の位置，役割＞

普段からかかわっている児童同士で相対して活動を行うことにより，目の前にいる児童に関心をもち，下を向きがちであった顔を上げて活動しようとする姿が見られた。



## オ まとめ

自分で体を動かして移動する感覚がもちにくい実態の児童に対して，環境づくりに視点を当て，支援ツールや教師の動き方を改善していくことで，各自の目標を目指して自ら動こうとする姿が見られるようになった。また，何をすれば良いか分からず，動きが止まってしまう児童に対して，活動を思い出せるように児童の前方から教師が言葉掛けをすることで，やるべきことが分かり，活動時間が増えた。障害が重いと個への支援に偏りがちなので，全体への支援の充実を図るため，集団での活動を意識した取組が必要である。

## 4 実践の記録

「授業づくりシート」を活用することによって，児童生徒の「付けたい力」から「技能（できる）」、「態度（かかわる）」、「知識，思考・判断（分かる）」のバランスと系統性をもた



せた「単元の目標」を導き出し、目標を達成するための「ねらい・学習活動」と「手立て（環境づくり）」を踏まえた指導計画の作成を行うことができた。また、授業づくりの手順に沿って、第一次から第三次の三回に分けて評価を行うこともでき、児童生徒の運動量の増加と動きの質の向上が見られるようになった。全学部全グループによる「授業づくりシート」を活用した取組の中から、小学部第4学年ウルトラグループの「授業づくりシート」を例に挙げる。

### 【授業づくりシート】

| 学部・学年等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 小学部第4学年 ウルトラグループ                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 付けたい力                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 両足や片足で跳ぶ力                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                           |
| 単 元 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 体育科 基本的な運動「いろいろな跳び方で跳んでみよう」                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                           |
| 単元の目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | ねらい・学習活動                                                                                                                                                                       | 手立て（環境づくり）                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 評価（環境づくりに視点を当てて）                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                           |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 第一次                                                                                                                                                                                                                        | 第二次                                                                                                                                                                                                                  | 第三次                                                                                                                                                                                       |
| ㊦両足や片足で、連続して前方や上方に跳ぶことができる。<br>㊧順番やコースを守って、教師や友達と一緒に進んで活動に取り組むことができる。<br>㊨友達や教師の手本を見て、跳び方を知り、跳ぶことができる。                                                                                                                                                                                                                                                                                 | （第一次）<br>・両足で跳ぶ方法（膝の使い方、腕の振り方）を知る。<br>・両足跳びでケンステップの中に入る。<br>（第二次）<br>・連続して、両足跳びでケンステップの中に入る。<br>・連続して、両足でゴム跳びをする。<br>（第三次）<br>・連続して、両足でゴム跳びをする。<br>・置いてあるケンステップに合わせて、ケンケンパをする。 | （ア）跳んだ後に、ケンステップの枠内に踏みとどまる力・踏ん張る力を付けるため、ケンステップの間隔を短くする。①<br>（イ）ケンステップの位置を変えずに、二つのケンステップの間に障害物（ゴム跳び）を設置する。<br>①<br>（ウ）両足で跳ぶことが分かるように、跳ぶ前と着地する位置に足型を置いておく。②<br>（エ）ゴム跳びは、児童の実態に応じて高さを調節する。②<br>（オ）MTは全体把握、STは各コース別で指導を行う。③<br>（カ）友達が見える位置で順番を待つ。④<br>（キ）学習ポイントに合った動きの児童をまねできるように、活動の途中で発表を行う。④ | ㊦ケンステップからケンステップへ両足で跳ぶことができるようになってきた。ただし、膝を曲げていなかったり、腕を振っていない児童が多い。また、跳んだ後にケンステップから出てしまう児童がいた。（ア）（ウ）（オ）<br>㊧跳ぼうとする意欲が高いため、自分が跳びたいという気持ちが強く、順番を守ることが少し難しかった。（カ）<br>㊨活動の途中で、跳び方が上手な児童が1度手本を見せる場面を設けることで、友達の動きを見る児童の姿が見られた。（キ） | ㊦連続して両足跳びができるようになってきた。ゴム跳びにおいても、同じようなリズムや動きで跳ぶことができた。また、ゴムひもの高さによってコースを設定し、実態に合った高さで跳ぶ練習ができた。（イ）（エ）（オ）<br>㊧自分でコースを選択して跳ぼうとする姿勢が見られた。順番を少しずつ守ることができるようになってきた。（エ）（カ）<br>㊨STが膝の使い方や腕の振り方を指導したことで、跳び方が分かるようになってきた。（オ）（キ） | ㊦実態に合った高さのゴム跳びができるようになった。徐々に高く跳ぶことができるようになってきた。（イ）（エ）<br>㊦ケンステップの位置に合わせて、足を開いたり、閉じたりすることができるようになってきた。（ア）<br>㊧活動時間中、自分からコースに移動して連続して跳ぶことができた。（キ）<br>㊨ケンケンパの跳び方が分かり、足を開いたり、閉じたりすることができた。（オ） |
| <単元全体の振り返り><br>第一次で、ケンステップ間を跳ぶ練習を行った。膝を曲げたり、前に跳んだりすることが意識できるような言葉掛けや支援を行ったことで、跳ぶ方法が分かり、ケンステップに立つと膝を曲げようとしたり、前に跳ぼうとしたりする姿が見られた。第二次では、ケンステップの間にゴムひもを設置し、両足で跳び越す練習に取り組み、第一次と同じリズムや動きで跳ぶことができた。また、ゴムひもの高さを調節することで、低いコースで練習を重ね、自信を付けてから徐々に高いゴム跳びに挑戦することができた。第三次では、ケンケンパ（足を開いたり閉じたりして跳ぶ）の練習を行った。最終的には、ケンステップがない場合でも、50cm程度のゴム跳びを行うことができるようになった。また、児童が自分からコースに移動し、活動時間を通して繰り返し跳ぶ姿が見られるようになった。 |                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                           |

環境づくりの具体的な取組と分析結果を、以下のとおり挙げる。

### 【環境づくりの具体的な取組】

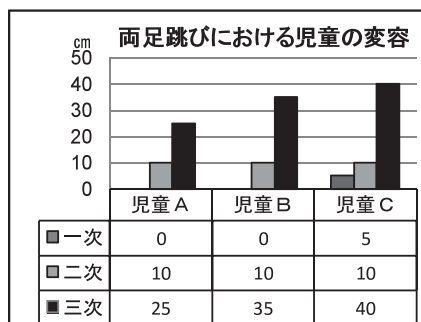
| 支援環境 | 物理的 | ① 教材・教具、支援ツールの効果的な配置                                                      |
|------|-----|---------------------------------------------------------------------------|
|      |     | ○ ケンステップで跳ぶ位置が分かるように設置。<br>○ 跳んだ後、踏みとどまるため、ケンステップの設置間隔を狭く設置。              |
| 支援環境 | 人的  | ② 児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの活用                                              |
|      |     | ○ ケンステップ間を跳べるようになってから、ケンステップの位置を変えずに、間にゴムひもを設置。<br>○ ゴムひもの高さを児童の実態に応じて調節。 |
| 支援環境 | 人的  | ③ 教師の役割                                                                   |
|      |     | ○ MTは全体把握、STは各コースでの指導。                                                    |
| 支援環境 | 人的  | ④ 児童生徒の役割                                                                 |
|      |     | ○ 友達の跳び方が見える位置で順番を待てるように配置。                                               |



## 【分析結果】

### 環境づくりによる児童の変容（○動きの質の向上、●運動量の増加）

- 自分から意識して膝を曲げ、両足で踏み切って跳ぶことができた。
- ゴムひもの高さを調節し、高さの異なるコースを設置したため、課題に合わせた高さに進んで取り組むことができた。
- 児童が自分からコースに移動し、活動時間を通して繰り返し跳ぶようになった。



児童 A： 教師が前方から両手を支持しても跳ぶことが難しかったが、一人で高さ 25 センチのゴムひもを跳べるようになった。

児童 B： ゴムひもをまたいでいたが、膝を意識して両足で踏み切り、高さ 35 センチのゴムひもを自ら進んで跳ぶようになった。

児童 C： 膝を曲げて前方に跳ぶことが難しかったが、膝を曲げ、力強く踏み切って、高さ 40 センチのゴムひもを跳ぶことができるようになった。

## 5 研究のまとめ

### （１）成果

環境づくりに視点を当てた授業づくりに取り組み、四つの視点（「2 研究内容」表 1 参照）を意識することで、「活動の始点・終点が分かりやすい動線にする」、「目標物や立ち位置を明確にする」等の物理的支援環境や、「MTは全体指示に徹し、STは個別の支援を行う」、「教師は児童生徒に付かず場に付く（受け手と送り手の役割分担）」、「児童生徒の細かな動きや変化を見取り、教師が確かなフィードバックを行う」、「児童生徒がリーダーとなり、他の児童生徒の動きにつなげる」等の人的支援環境に変化が現れ、児童生徒が主体となって活動する姿が授業の中で多く見られるようになった。さらに、環境づくりの取組を整理、精選し、「環境づくり事例集」としてまとめたことで、効果的な支援の共有化を図る基盤づくりにつながった。また、体育学習を行うグループごとに「授業づくりシート」を作成し、指導と評価の一体化を図った。その結果、グループの課題が明確になり、指導目標や指導内容、手立てを共有しながら、授業改善を図ることができ、児童生徒の確かな変化を実感することができた。

児童生徒数に比例し、教員数も増加傾向にある本校において、「授業づくりシート」をツールとし、全校、各学部、学部を越えた縦割り集団での研修会という様々な形態で研修を進めてきたことで、研究の方向性を全体で共有することができた。そのことが、教員間の協同の促進へとつながり、全教員で本研究に参画できた。本研究において、様々な形で研究の成果を共有できたことが、教員の更なる実践的指導力の向上に結び付いた。

### （２）課題

児童生徒が自ら考えて動き、より多くの活動量が保証できる授業づくりを進めるために、教員間の役割分担や連携の取り方、児童生徒同士のかかわりを引き出すための役割やペア・グループ活動等の人的支援環境について、更なる充実、精選を図っていく必要がある。また、授業改善の結果、児童生徒の運動量の増加や動きの質の向上を確認できたが、児童生徒が活動する姿の見取りによる教師の主観的な評価が多かった。児童生徒の変容を的確につかみ、より適切な手立てを講じていくためにも、計画的で客観的な評価の在り方を検討していく必要がある。今後も、児童生徒が「やってみたい、やってみよう、もっとやりたい」と思い、主体的に活動に向かうことのできる授業づくりへと発展させ、更なる体育学習の充実を目指していきたい。